

中 学 校

平成22年度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教育委員会

目 次

| | | |
|-----|--------------------------|----|
| I | 主題設定の理由 | 1 |
| II | 研究の視点 | 2 |
| III | 研究方法 | 2 |
| IV | 研究仮説 | 2 |
| | 1 研究仮説の設定 | 2 |
| | 2 本部会における定義 | 2 |
| | 3 研究構想図 | 3 |
| V | 研究内容 | 4 |
| | 1 協同的に取り組む態度をはぐくむ指導計画の工夫 | 4 |
| | 2 実態調査 | 5 |
| | 3 検証授業 | 7 |
| | 4 検証授業の分析及び課題と成果 | 7 |
| | (1) 授業観察からの分析 | 10 |
| | (2) 自己評価シートからの分析 | 13 |
| | 5 指導モデル | 14 |
| VI | 研究の成果と課題 | 16 |

研究主題

協同的に取り組む態度を育む指導の工夫 ～他者や社会との関わりに関することの視点を踏まえた指導の工夫～

I 主題設定の理由

変化の激しい社会において、子供たちが将来、自己の力を発揮し、たくましく生きていくためには、自己を生かし主体的に生きる力を身に付けることが求められている。総合的な学習の時間で育てようとする、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする資質や能力は、これからの時代を担う子供に欠くことのできない力である。

自己の力を社会の中で生かしていくには、平成20年の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」で述べられているように、「自己との対話を重ねつつ、他者や社会、自然や環境と共に生きる、積極的な『開かれた個』である」ことが子供たちに求められる。このことは、多様な考え方をもつ他者と適切に関わり合ったり、社会に参画・貢献したりする資質や能力、態度を育成することが、今、強く求められているものであると考える。

しかしながら、現実には、社会の変化により、異年齢などの多様な人と関わる機会が減少していることや、自分に自信がもてず将来や人間関係に不安を感じているといった子供の現状がある。そのような現状から、他者との関わる力を高めていくことが重要であり、協同的に取り組む態度を子供たちに育成することが急務であると考えた。

また、総合的な学習の時間の実施状況については、大きな成果を上げている学校がある一方、前述の平成20年中央教育審議会答申で指摘されているように、当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況も見られ、特定の教科の知識・技能の習得を図る活動や運動会の準備などと混同された実践が行われているという実態が課題として浮かび上がった。こうした状況を改善するためには、各学校における総合的な学習の時間の目標を明確化するとともに、問題解決的な学習や探究的な学習を展開していくこと、すなわち具体的な学習活動を質的に高めていくことが最重要であると考えた。

今回の学習指導要領の改訂では、前述の現状から、総合的な学習の時間において、その特性を踏まえ、「協同的に取り組む」態度を育てることが期待され、目標に「協同的に取り組む」ことが新たに設けられた。

以上を踏まえ、本部会では、協同的に取り組む態度を育むことが、多様な考え方をもつ他者と適切に関わり合ったり、社会に参画したり、貢献したりする資質や能力の向上につながると考え、研究主題を「協同的に取り組む態度を育む指導の工夫」とした。そして、学習指導要領で示されている「育てようとする資質や能力及び態度」の三つの視点の中でも「他者や社会との関わりに関すること」に重点を置き、その指導の在り方を探ることとした。

また、協同的に取り組む態度を育むことは、必然的に言語を介して行われるものであり、言語活動の充実も図ることができると考えた。

II 研究の視点

総合的な学習の時間は、今回の学習指導要領の改訂で新たに章立てされ目標が明確に示された。実際の指導内容については、各学校において学習指導要領で示された目標に基づき、各学校の生徒や地域を含めた実態に即して創意工夫し設定されるものである。また、指導内容については、評価を行い毎年見直しされるべきものである。

このことから、今回の研究にあたっては、現状で行われている総合的な学習の時間の学習内容を、改めて協同的な態度を育む視点で見直し、具体的な指導や手だてをその学習に位置付けることにした。このことは、どの学校においても実施できるものであり、「単元指導計画」や「一単位時間の指導計画」の作成においても活用できると考える。

III 研究方法

研究を進めるにあたって、次のように、基礎研究・実態調査を行い、仮説を立て、検証授業を行った。

1 基礎研究

学習指導要領、学習指導要領解説、中央教育審議会答申（平成20年度）等から、今回の改訂で総合的な学習の時間に求められていることについて把握した。また、各研究員の所属校等における総合的な学習の時間の取組について情報交換を行い、課題や研究の方向性について明らかにした。

2 実態調査

総合的な学習の時間に関する、教師や生徒の意識を把握するため、教師、生徒を対象にしたアンケート調査を行った。

3 実践研究

基礎研究、実態調査を基に仮説を設定し、授業実践を通して仮説の検証を行い、成果と課題を明らかにした。また、指導モデルを作成した。

IV 研究仮説

1 研究仮説の設定

本研究を進めるにあたり、基礎研究、実態調査を基に、仮説を次のように設定した。

研究仮説

他者や社会と関わることを意識化した学習活動の工夫をすれば、協同的に取り組む態度を育むことができるであろう。

2 本部会における定義

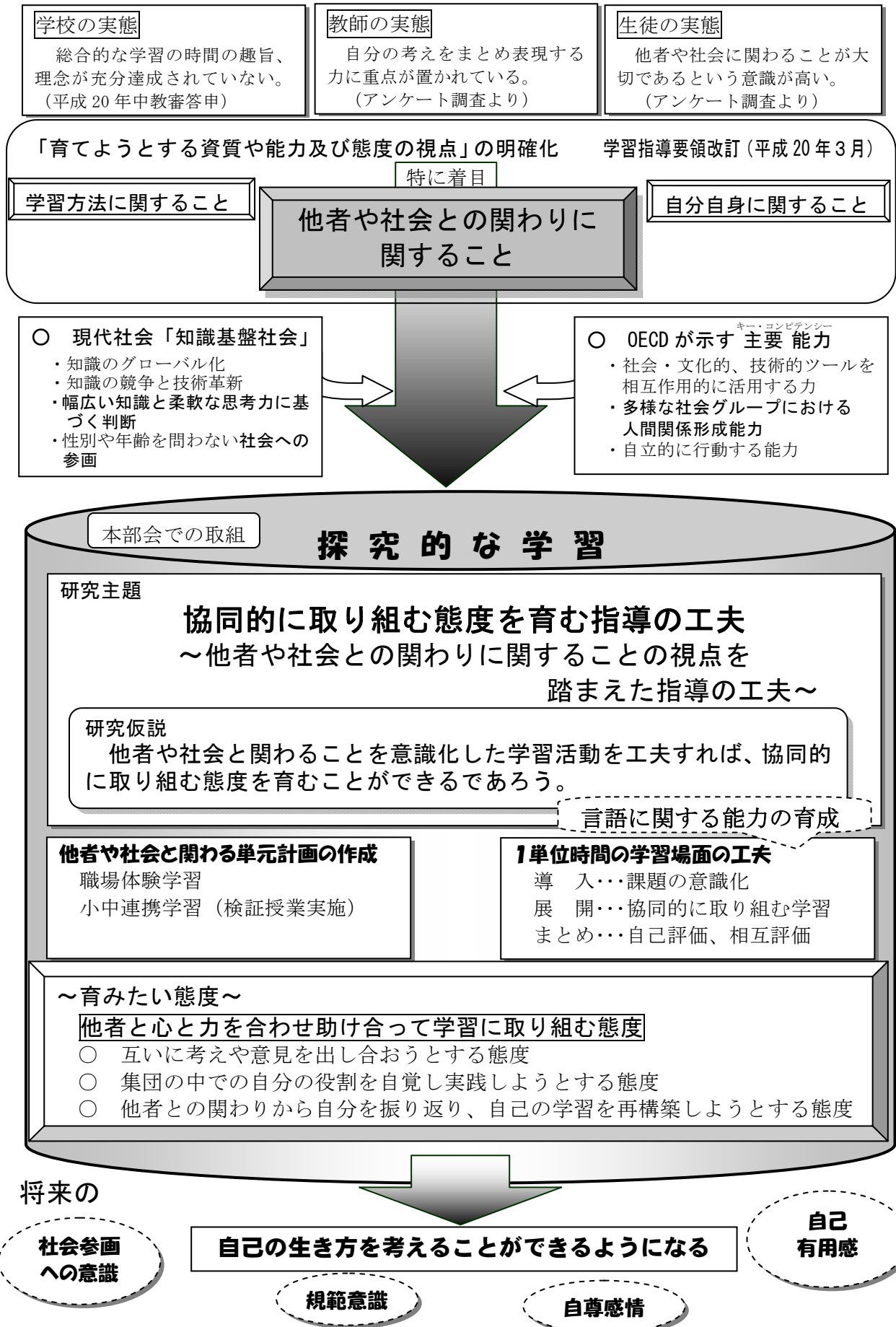
(1) 「他者や社会との関わり」について

生徒が他者として意識しているのは、通常、普段接しない小学生、地域の人（家庭）、職場体験場所の人やゲストティーチャーといった人たちが主である。しかし、本研究では、グループや学級、学年や他学年の生徒、教師など、通常接している人も他者としての意識をもたせ、協同的に取り組む態度の育成を図ることが重要であると捉えた。

(2) 「協同的に取り組む態度」について

「協同的に取り組む態度」を「他者と心と力を合わせ助け合って学習に取り組む態度」と捉えた。力とは、「各自がこれまでの学びや経験で培った知識や技能、またそれを活用する力」と捉えた。そして、他者と心と力を合わせて助け合って学習に取り組む態度は、多様な考え方ももつ他者と適切に関わり合うことや多様な考え方に触れる場面を通して、育まれるものとする。また、他者と関わることは言語を介して行うものであり、他者と関わることを通して言語の力を高めていけると捉えた。

3 研究構想図



V 研究内容

1 協同的に取り組む態度を育む指導計画の工夫

(1) 協同的に取り組む態度の具体的な姿

仮説で前述したように、本部会では「協同的に取り組む態度」を「他者と心と力を合わせ助け合って学習に取り組む態度」とした。そして具体的には、次のような態度と定義した。

- 互いに考えや意見を出し合おうとする態度
- 集団の中での自分の役割を自覚し実践しようとする態度
- 他者との関わりから自分を振り返り、自分の考えを再構築しようとする態度

(2) 他者との関わりに関することの視点を踏まえた学習

副主題として掲げた視点は、他者との関わりを意図的に設定するとともに、生徒にも意識化を図っていくことである。他者と関わる学習活動を単元計画に設定し、1 単位時間の授業展開にも生徒が他者との関わりを意識できる手立てを講じていく。

(3) 学習計画の工夫

単元及び毎時間の授業の流れを図 1 のように設定し、生徒が他者との関わりを意識して学習活動を行えるよう、次の 2 点について指導の工夫を図った。

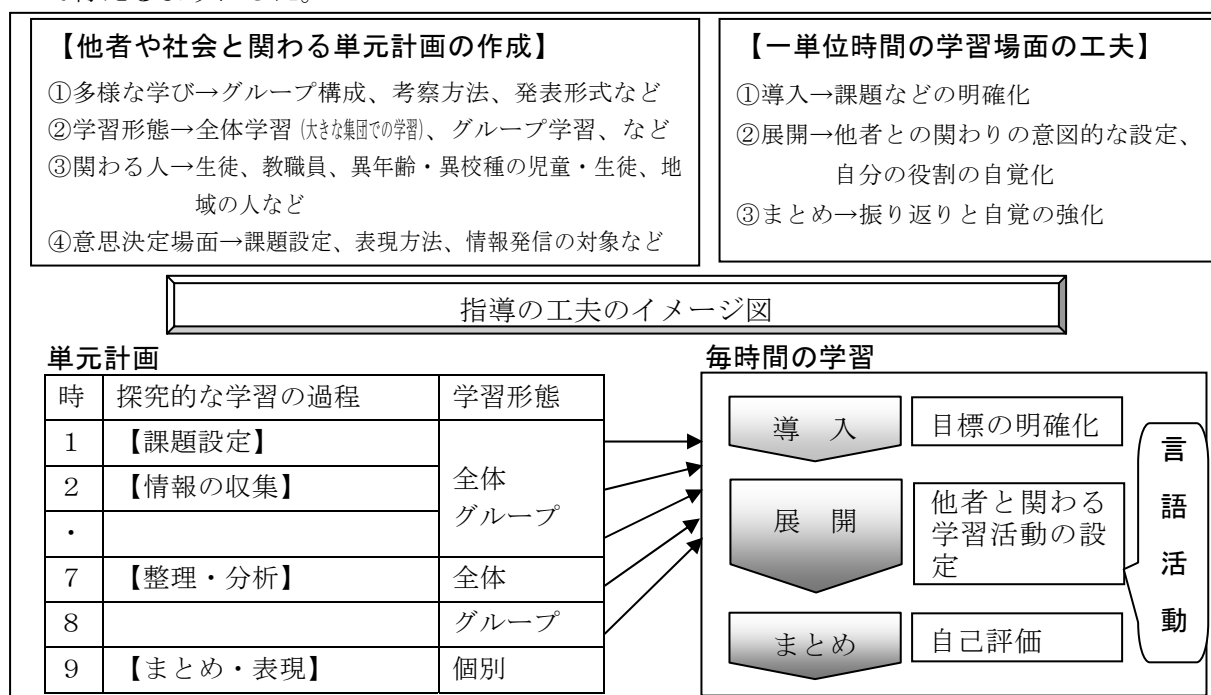
ア 他者や社会と関わる単元計画の作成

他者との関わりを意識し、協同的に取り組む態度を育むには、①多様な学び、②学習形態、③関わる人、④意思決定場面の 4 項目が必要であると捉えた。単元計画にこの 4 項目を学習内容と照らし合わせながら、その順序性や重点化を図る学習活動を適切かつ効果的に配置した。それぞれの内容については、P 7 実践例で詳しく述べる。)

イ 1 単位時間の学習場面の工夫

毎時間の導入では、総合的な学習の時間における本時の目標を伝えるとともに、他者との関わりに関する重点を伝える。そして展開時の学習活動、まとめの振り返りが、目標に沿って行えるようにした。

【図 1】



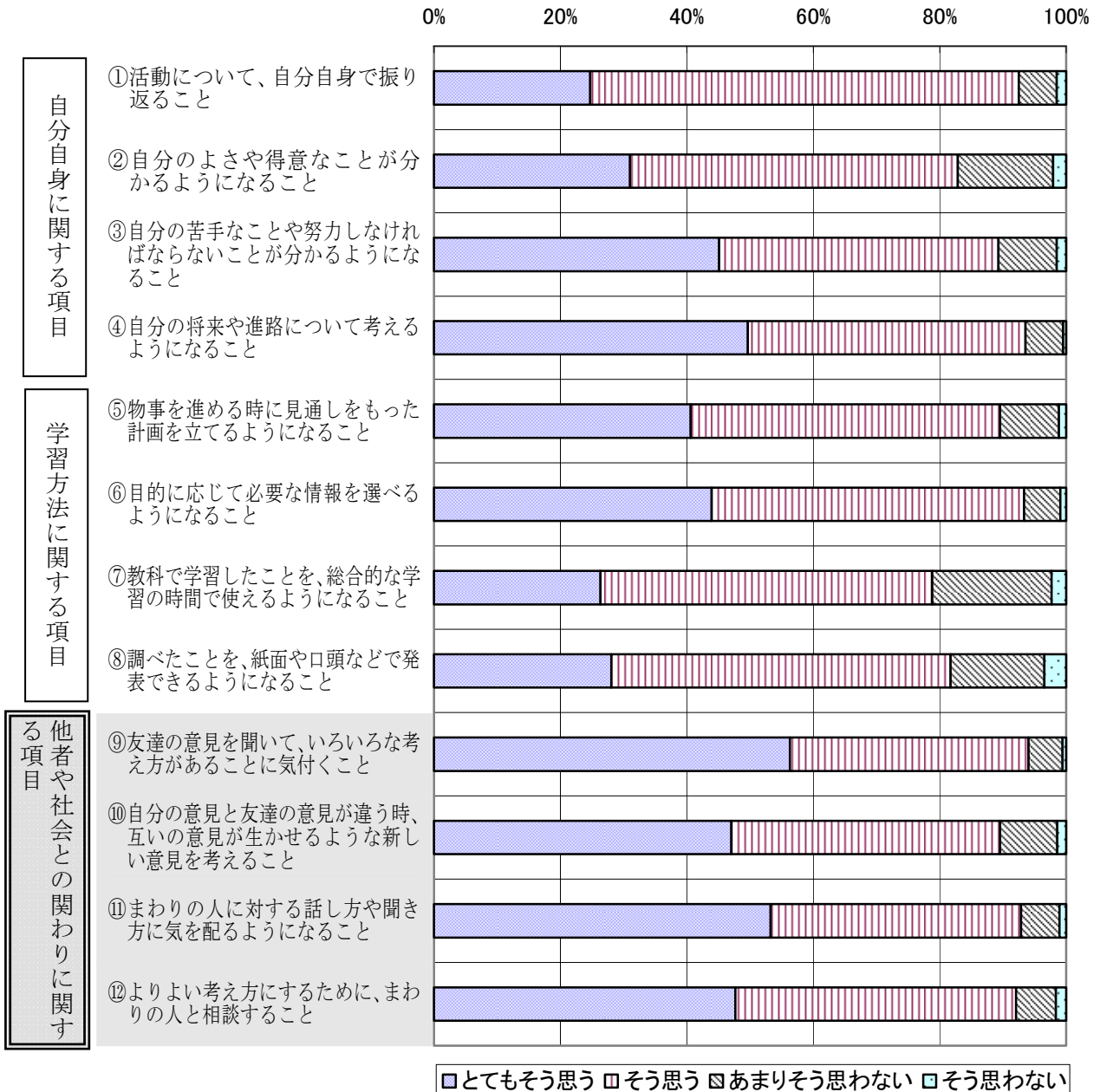
2 実態調査

研究を進めるにあたり、生徒や教師の実態を把握する必要があると考え、都内公立中学校5校でアンケート調査を行った。その結果から以下の結果を得ることができた。

【生徒対象アンケート】

調査人数：第1学年 291人 第2学年 301人 第3学年 278人 計 870人

「総合的な学習の時間」を学習する中で、大切だと思うことはどのようなことですか。①～⑫について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで、○をつけてください。

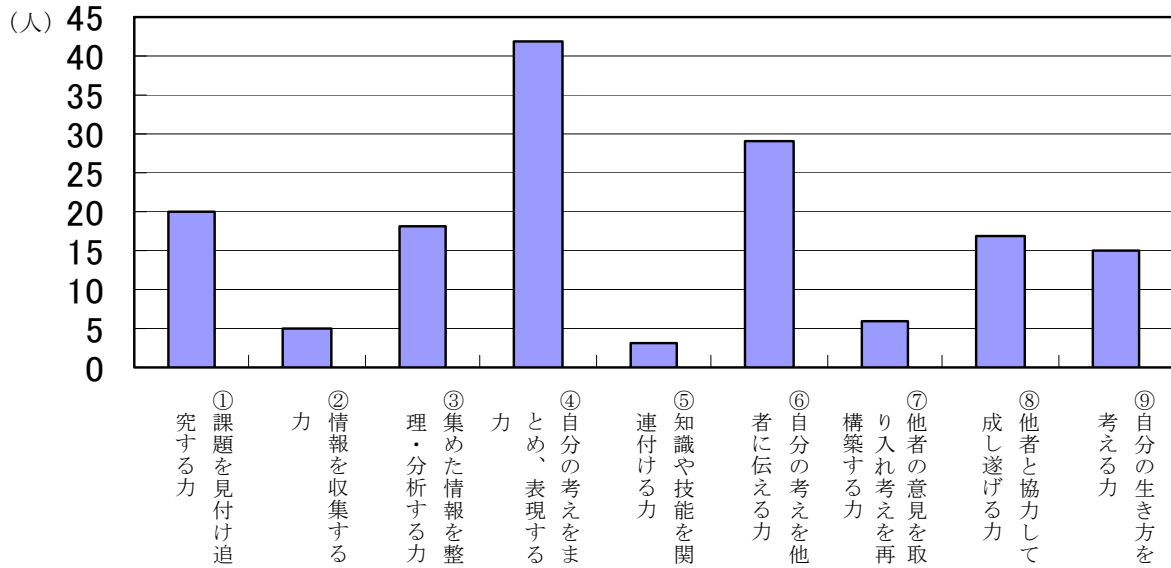


【考察】

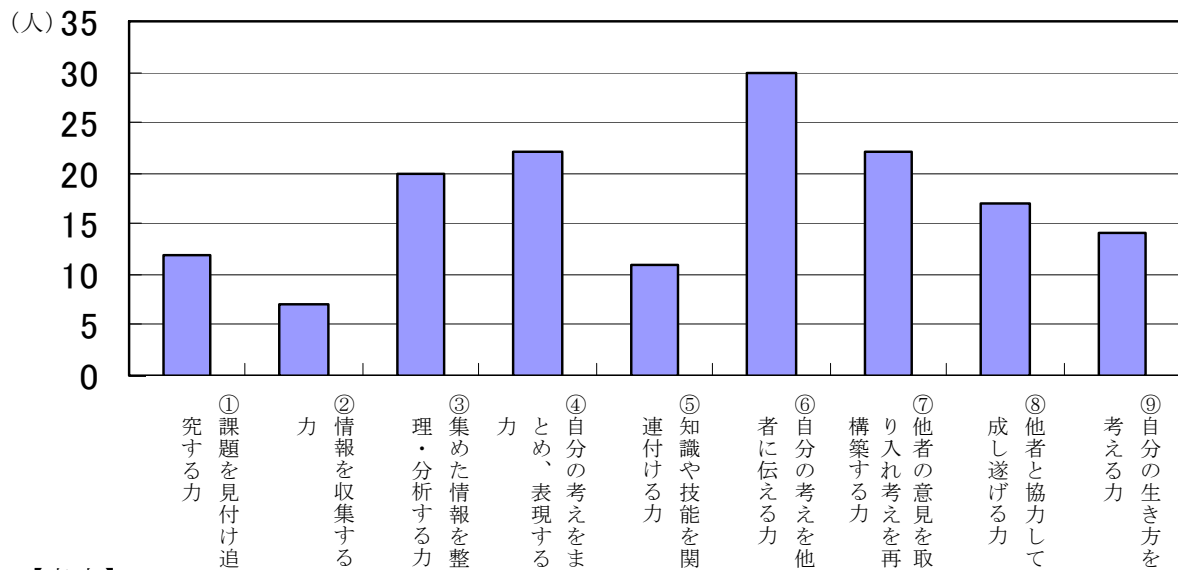
項目は、どれも総合的な学習の時間で大切なことであるため、大きな差異は見られなかったが、他者や社会との関わりに関する項目については、「とてもそう思う」という回答が比較的高いことが分かった。

【教師対象アンケート】 調査人数：51人

1 総合的な学習の時間を通して生徒に身に付けさせたい力として、特に重点を置いていることは何ですか。(3つまで回答)



2 総合的な学習の時間を通して生徒に不十分であると思う力は何ですか。(3つまで回答)



【考察】

身に付けさせたい力としては、「自分の考えをまとめ、表現する力」が一番多く、「自分の考えを他者に伝える力」、「課題を見付け追究する力」の順であった。

生徒に不十分であると感じる力については、「自分の考えを他者に伝える力」、「他者の考えを取り入れ考えを再構築する力」、「自分の考えをまとめ、表現する力」の順であった。

教師は、他者に考えを伝えたり、他者の考えを取り入れたりする他者との関わりに関する力が生徒には不十分であると感じている。しかし、実際の指導では、身に付けさせたい力として、まとめ・表現することに重点が置かれている傾向が読み取れる。

このことから、教師の意識は、総合的な学習の時間の学習を実施する上で、まとめや発表といった部分に力点が置かれ、他者との関わりに直接切り込む視点で学習を構築している状況は少ないと考える。

3 検証授業 (中学校第2学年)

(1) 単元名 「地域のために生かそう私たちの力 ～リトルティーチャーになろう～」

(2) 単元設定の理由

本事例の当該校は、小学校と隣接している環境特性を踏まえ、様々な形で小中連携教育を取り入れている。例えば、生徒会活動や部活動体験の実施、また各教科における教師による出前授業、作品展示交流、特別活動では中学1年生をリトルリーダーとし、合同防災訓練も実施している。

本単元は、地域社会のために自分たちができることを考え、中でも日頃から交流のある小学校の児童のためにリトルティーチャーになり、教師の指導のもと、児童の学びを手助けする活動を行う。本単元では、生徒が小学生に教えることを計画し実践することで、集団の中での自己の役割を自覚し、その役割を果たすことや、多様な他者と関わり、協力して課題を解決する方法を身に付け、協同的に取り組む態度を育むことを目指した。

(3) 単元目標

- リトルティーチャーの役割を自覚し、他者と協力して課題解決を図る方法を身に付ける。
- 他者の立場で物事を考える力を育むとともに、自己の活動を振り返ることで集団の中での役割に気付く。
- ともに学ぶ喜びを味わい、他者との好ましい関わり方から自己の責任を果たそうとする心を養う。

(4) 単元の評価規準

| 自分自身に関すること【自】 | 学習方法に関すること【学】 | 他者や社会との関わりに関すること【他】 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・リトルティーチャーとしての自覚をもち、行動できたか。・学習の振り返りを通して、自己を見つめることができたか。 | <ul style="list-style-type: none">・学習課題を理解し、実践できたか。・学習のまとめをし、次回の学習に生かそうとしたか。 | <ul style="list-style-type: none">・他者と協力して課題に取り組んだか。・集団の中での自己の役割に気付き、行動できたか。 |

(5) 育みたい態度の育成を図るための工夫

ア 他者や社会と関わる単元計画の作成

① 多様な学びの確保

クラスの壁を取り払い、興味・関心に応じた教科別のグループを構成した。日常は、一緒に授業を受けることのないメンバー構成によって、新たな学びの場を設定した。

また、問題作りでは、小学校の教師に自分たちから情報を発信し、アドバイスをしてもらい、更に役立てるなど、課題解決に向けて多様な学び方を経験させる。

② 適切な学習形態

リトルティーチャーの学習における自分たちの役割について考える場面は全体で行った。また、問題作りは、一人一人が確実に関わられるように、小グループで行うなど、内容に応じて学習の集団の規模を工夫したり、役割ごとに内容を確認したりする場面を設定した。

③ 関わる対象の明確化

本単元での関わる対象は、生徒、小中学校教師、小学生である。中でも小学生との交流活動を探究的な学習のまとめとして位置付けたため、対象の中心は、年少者である小学生となる。また、小学生に教えるための問題作成など、準備を進めるには、生徒同士が共に

協力し合うことが求められることから、生徒同士の関わりについても意識化を図った。

④ 意思決定場面

課題設定をはじめとして、担当する教科、役割、問題作成にかかる分担等では、生徒自身による意思決定を重視した。生徒に意思決定をさせることで、責任感を伴わせ、主体的かつ他者と協力して課題解決を図る活動を期待した。

イ 1 単位時間の学習場面の設定

①「導入」…課題の意識化

導入では、本時の学習の目標のほか、他者と協同して取り組むために意識する点を明示した。その際、課題をより明確に伝える方法としてプロジェクターを活用し、言語と視覚の双方で課題を確認できるようにした。また、活動中はその課題を提示し、課題意識の継続を図った。

②「展開」…協同的に取り組む学習

グループ学習を基本として、互いに教え合い、学び合う活動を設定した。学習課題は、他者の立場に立って考察する課題を設定した。それにより、集団の一員としての自覚を促す話合いや、考察の相違点から新しい考え方を再構築していく活動を行う。ここでは、他者と関わることを通して生徒の言語活動の充実を図る。

③「まとめ」…自己評価、相互評価

生徒の活動内容についての成果と改善点は自己評価シートで把握し、次時の課題と位置付けた。特に活動の振り返りを毎時間行い、単元の最後では、主観的な評価と客観的な評価を比較・検討することで自分自身に対する新たな気づきを発見できるよう工夫した。

(6) 指導計画（12時間）

| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点 |
|---|---|---|------------|
| 【学習活動1：課題の設定】自分たちが地域のためにできることを考えよう | | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会のために自分たちができることを考える。 ・日頃交流している小学生のために何ができるか考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への貢献に自分たちの力をどのように生かすことができるかを想起させる。 ・地域施設や環境などの側面から話し合わせる。 ・日頃交流している小学校のためにできることを考えさせる。 | 【自】 【学】 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教師に、小学生のために、どの学年で、どんな教科の学習の補助があるとよいか問い合わせる。 ・学習課題の把握と役割分担をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教師に自分たちの思いを伝えると共に、情報を得るようにさせる。 ・一人一人の学習課題と役割を明確にする。 | 【他】 |
| 【学習活動2：情報の収集】問題の題材を集めよう | | | |
| 3 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・対象学年の把握をする。 ・小学校の教師に、既習事項について尋ねる。 ・扱う資料の選択、情報の収集と精選をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・対象学年の既習事項について範囲を確認させ、適切な資料を収集、選択させる。 ・扱う資料の提示は教師が行い、その中から適切に情報を選択させる場を設定する。 | 【他】 【学】 |

| 【学習活動3：整理・分析】集まった情報を整理し、適切な問題を作成しよう | | | |
|-------------------------------------|--|--|----------------------|
| 5 6 | <ul style="list-style-type: none"> 小学生に身に付けさせたい力を確認する。 多面的な問題を作成する。 問題の適性を相互に確認する。 小学校の教師に作成した問題を提示し、アドバイスをもらう準備をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 小グループ隊形となって情報を持ち寄り、多面的な問題作成を考察させる。 問題の意図を説明できるようにさせる。 | 【他】 【他】【学】 【他】 |
| 7 | (本時) 連携授業の準備と役割分担する。 | <ul style="list-style-type: none"> 役割を自覚し、自主的に行動する意識を高める。 | 【他】 |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> 問題の決定、模擬授業の準備をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 交流活動を想定し、自分の役割を意識して活動させる。 | 【学】 |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題点と課題を整理し、授業内容の改善を図る。 | 【他】 |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> 授業改善の確認及び交流活動の準備をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 改善の手だてを考え、他者とよりよいものを作り上げようとする態度を養うようにする。 | 【学】 |
| 【学習活動4：まとめ】小学生と学び合おう | | | |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> 小学生との交流活動の実践をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 小学生との関わりの中で臨機応変に対応するため、言葉がけを大切にさせる指導をする。 | 【他】【学】 |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> 成果と課題の把握及び単元のまとめをする。 | <ul style="list-style-type: none"> 単元のまとめとして、評価シートを活用する。 | 【自】【他】 |

(7) 本時の展開 (12時間扱いの7時間目)

① 本時の目標

- 各自の役割を自覚し、集団の中での責任を果たそうとする。
- 他者と協同して課題解決を図ろうとする。

② 本時の展開

【学習活動3】集まった情報を整理し、適切な問題を作成しよう

| 時間 | 学習活動 | 学習形態 | 教師の指導・留意点 | 主な評価 |
|-----|---|------|--|---|
| 5分 | ①前回の活動を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習過程の確認 ②今日の学習課題を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> 役割分担と問題作成 | 全体 | <ul style="list-style-type: none"> 本日の学習課題を明確にし、評価の観点を示唆しておく。 プロジェクターを活用し、視覚に訴える | <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題を理解できる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学習方法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">課題の意識化</div> |
| 40分 | ③班内での学習内容を確認する。 ④役割分担を確認し、決定する。 <ul style="list-style-type: none"> L T (リトルティーチャー) (2人) 出題者 (1人) A T (アシスタントティーチャー) (1人) | グループ | <ul style="list-style-type: none"> 班内で課題を明確化するよう促す。 集団の中の役割を自覚しながら決めるよう伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> 集団の中での役割を自覚し分担できる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">他者や社会</div> |

| | | | | |
|----|--|--|---|--|
| | <p>⑤問題を作成し、決定する。</p> <p>前半 { 4人で問題作成 出題意図を話し合う }</p> <p>中盤 { ⑥LTの動き ・役割確認 ・動き 問題点検 確認 } { ⑥出題者等の動き 問題点検 確認 ・役割確認 ・役割 }</p> <p>後半 { 問題の再構築、決定 }</p> <p>⑦問題の作成が終わり次第、班内での模擬授業を行う。</p> | <p>↑</p> <p>役割別</p> <p>↓</p> <p>グループ</p> | <p>・問題作成の意図を明確にするよう、アドバイスをを行う。</p> <p>・他者の立場に立った想定問答を行うよう伝える。</p> | <p>・問題作成について班の話し合いに参加できる。</p> <p>他者や社会</p> |
| 5分 | ⑧自己評価カードを記入し、次回の課題を確認する。 | 全体 | <p>自己評価・相互評価</p> | <p>・自分を振り返り、次回の課題を確認することができる。</p> <p>自分自身</p> |

4 検証授業の分析及び成果と課題

(1) 授業観察からの分析

仮説に基づき、「他者や社会と関わる単元計画の作成」及び「一単位時間の学習場面の工夫」について、授業観察の側面から成果を検証した。

▼意思決定場面（問題作成）



▼互いの意見の集約（問題作成）



まず、「他者や社会と関わる単元計画の作成」では、例えば、第2時の「グループシート」活用で意思決定の場面を設定した。意思決定場面に重点を置いた理由は、本校生徒の実態に合わせ、自分で決めたことに責任をもたせることで主体的に活動す

る姿勢を期待したからである。特に難易度別の「問題作成シート」の考察場面では、「なぜその問題を選択したか」について、個人またはグループで意見を出し合わせたり、「小学生がどこを見れば解答できるか」などについて文章で表現させたりする工夫をした。

さらに、交流活動における役割分担での**学習形態の工夫**として、役割別の指導を意図的に設定し、「その役割を果たすために必要な資質は何か」について、役割ごとに文章で表現させ、互いに考えさせた。

出題する問題については、個々の小学生の理解の状況に対応できるように、難易度別に3問準備した。

▼役割別の指導場面



また、交流活動でともに学ぶ際、小学生がどの資料を活用すれば解答できるかを検討させ、他者の立場に立った視点で考察させるよう、学習活動を設定した。

以上のように学習を進めた結果、主にグループ学習の場面では、より主体的に自分の考えや意見を互いに伝え合う場面が増えてきた。また単元が進むにつれて、**集団の中での自分の役割の自覚が深まり、意思疎通を図るためには、他者の考えを受け入れながら自己の考えを再構築していこうとする姿勢が観察できた。**

これらのことから、他者や社会と関わる単元計画の作成によって、**協同的に取り組む態度を育む**ことができたと考える。

| 0.8 問題作成 出シート | | | |
|---------------------|------------|------|--------------------|
| 締め切り・・・11 / () 時まで | | | |
| | | 組 名前 | |
| 担当 | ジシ | | |
| グループ | () | | |
| 難易度 | 問題文 | 解答 | 小学生が、どこを見れば 解答できるか |
| 例 | は 地方でし うか。 | 東 地方 | 小学地図 P00 |
| 易しい | | | |
| 中くらい | | | |
| 難しい | | | |

▲難易度別の「問題作成シート」

次に「1 単位時間の学習場面の工夫」として、以下の3点について行った。

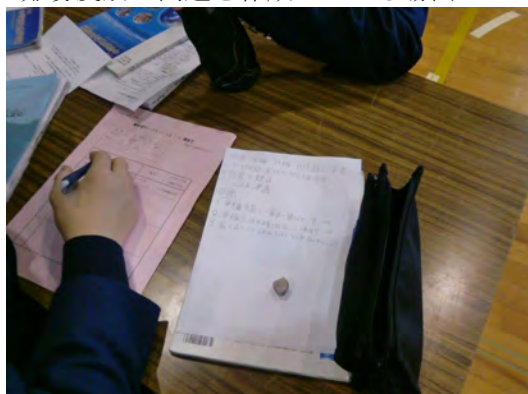
まず、**課題の意識化（導入）**では、プロジェクターでその授業での重点項目を視覚に訴え続けるよう工夫した。そのため、目標や学習課題の重点を常に確認しながら授業を進める生徒の姿が観察できた。

次に**他者と関わる学習場面（展開）**では、グループ学習を「前半」「中盤」「後半」に分類し、段階的に活動内容を質的に高めていく

▼プロジェクター（中央上）を活用した導入



▼メモを見ながら自己の考えを再構築し、
難易度別に問題を作成している場面



よう工夫した。具体的には、前時までに収集した情報をグループ全員で整理し（前半）、役割別指導を他者が受けている間、互いが考えた問題について小学生の立場に立って問題が妥当かどうか分析した。（中盤）さらに、相互の出題意図を再考し、（後半）難易度別の問題を決定させた。

最後に自己評価・相互評価（まとめ）では、自己評価シートを用いて1時間のまとめをした。特に自己評価シートでは評価規準を設問項目とし、それぞれの項目について三つずつ生徒に自己評価

を行わせ、単元の最後に定点分析ができるよう工夫した。

以上のような「1 単位時間の学習場面の工夫」の設定のもとで毎時間授業を進めてきた結果、まず「課題の意識化」では思考の継続が伴ったことにより、相互の課題についての共通理解が十分図られ、話合いの論点が明確になっていた。そのため、自分の意見を積極的に伝えたり、他者の意見についてメモを取ったりする様子が観察できた。その際、分からないことを教師や友達にアドバイスを求めて解決を図ろうとする背景には、小学生との交流活動に向けた実践意欲が高まり、そのため自己の役割についても責任を果たそうとする自覚が高まってきたことが考えられる。

また、「中盤」にグループの他者が役割別の学習を行っている時、「問題点検・確認」の場面では、班員の意見を踏まえ、自分の作成した問題についての改善点を点検し、新しい問題の作成を行う姿が観察できた。（「自己評価・相互評価」については、後述する。）

以上のことから観察による分析は、以下のようにまとめられる。

ア 「他者や社会と関わる単元計画の作成」による「協同的に取り組む態度」と捉えた生徒の姿

互いに考えや意見を出し合おうとする態度

→ 互いに真剣にかつ意欲的に自分の考えや意見を話し合っていた。

集団の中での自分の役割を自覚し実践しようとする態度

→ 単元が進むにつれて集団の中での自分の役割の自覚が深まっていった。

他者との関わりから自分を振り返り、自分の考えを再構築しようとする態度

→ 他者の考えを受け入れ、自己の考えを再構築していこうとする姿勢が見られた。

イ 「1 単位時間の学習活動の工夫」による「協同的に取り組む態度」と捉えた生徒の姿

互いに考えや意見を出し合おうとする態度

→ 自分の意見を積極的に伝えたり、他者の意見についてメモを取ったりしていた。

集団の中での自分の役割を自覚し実践しようとする態度

→ 分からないことを教師や友達にアドバイスを求めて解決を図ろうとしていた。

（交流活動に向け、自己の役割について責任を果たそうとする自覚と捉えた）

他者との関わりから自分を振り返り、自分の考えを再構築しようとする態度

→ 班員の意見を受け入れ、自己の問題を点検し、新しい問題の作成を行っていた。

(2) 自己評価シートからの分析

次に自己評価シートの側面から分析した。自己評価シートは毎時間、計画的・意図的に実施した。なお分析については、対象生徒の平均値をグラフ化した。

平均値 = (出席生徒150人が回答した数字の総得点) / (出席生徒150) として計算

▼自己評価シート (表面)

11 自己評価シート
単元 リトルティーチャーになろう (学習活動4: 学び合おう)

11 / () 年 組 名前

1 学習方法に関すること

| 評価項目 | ← いいえ はい → |
|--|---------------|
| (1) 今日の学習課題を把握しましたか。 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 |
| (2) 地図帳を効果的に使いましたか。 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 |
| (3) わからないことや疑問点は、地図帳や先生・友達に聞いて確認しましたか。 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 |

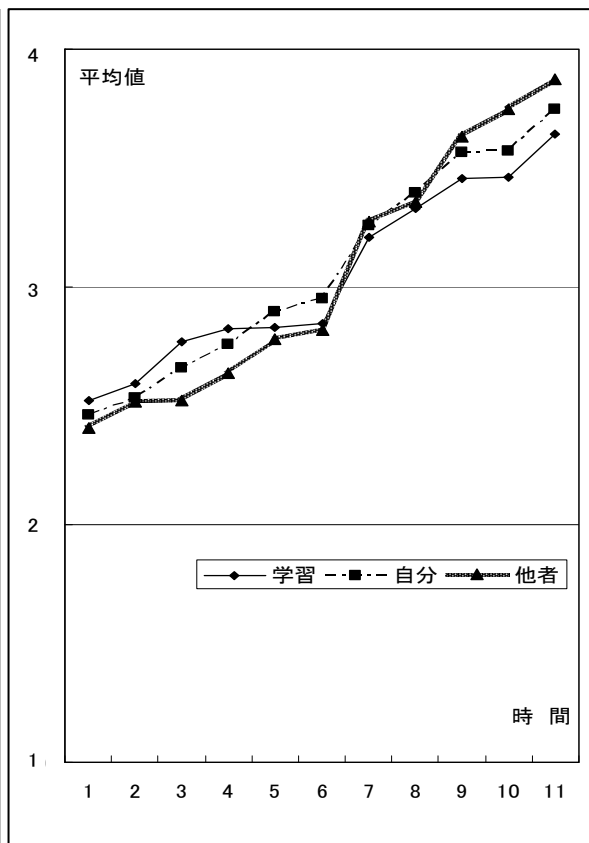
2 自分自身に関すること

| | |
|----------------------------------|---------------|
| (4) 今日の学習活動を意欲的に行いましたか。 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 |
| (5) 自分の役割を理解しましたか。 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 |
| (6) 今日の学習内容を振り返り、次に生かそうと考えていますか。 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 |

3 他者とのかわりに関すること

| | |
|---|---------------|
| (7) (今日の重点) 小学生の立場になって、問題を出したり、アドバイスを送ったりしましたか。 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 |
| (8) (今日の重点) 小学生や班員と協力し、次の行動についてお互いに話し合いながら活動しましたか。 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 |
| (9) 役割を自覚し、集団の一員として活動しましたか。 | 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 |

▼定点分析 (平均値)



全体として単元を追うごとに評価が上がっていることが分かる。特に定点分析では、7時間目以降の上昇率が高く、「小学生との交流活動の実践」で最高値に達している。そして「他者との関わりに関すること」の評価に注目すると、はじめは最も低い2.4だったものが、3.8にまで上昇し、最も高い評価となった。その理由を11時間目の自己評価の「自由記述」から探ってみた。

▼検証授業 (左: 7時間目) と交流授業 (右: 11時間目) の様子

生き生きと小学生と交流を図る姿



ウ 自由記述からの分析（一部抜粋） **他者との関わりに関することの視点**

- ・視点を变えて物事を見るようになった。
- ・相手の立場になって物事を考え、分かりやすく伝えるため、適切な問題作成に努めた。
- ・問題作成（7時間目）の頃から、小学生が解ける問題を意識し始めた。実際に解いてもらいうれしかった。
- ・一言一言を考えて言葉を発するように努めた。
- ・下級生の立場になって授業に取り組めた。
- ・小学生の頃の自分を思い返し、かつての自分がどのような存在だったのか気付いた。
- ・小学生のために積極的に行動できる自分がいた。
- ・一人では難しくても、皆でやればできることはある、ということを学んだ。など

上記の記述からは、小学生との交流活動が具体化しはじめた7時間目以降に、特に他者との関わり意識が高まり、実際の交流活動によってさらに達成感が味わえたことが伺える。

(3) 成果

以上の(1)ア、イ及び(2)ウを根拠とし、『他者や社会と関わる単元計画の作成と一単位時間の学習活動の工夫により「協同的に取り組む態度」が育まれる』ことを実証した。

また、他者と関わる活動では、話し合いが活発に行われたほか、文章で表現する活動を多く取り入れたことで、自分の考えを文章に表すなど、話したり、書いたりする言語の力の向上も図ることができた。

(4) 課題

課題としては、次の2点が挙げられる。

ア 全体として、協同的に取り組む態度の向上が図られたが、個々の生徒の態度の向上については違いが見られた。向上が顕著に見られなかった生徒への指導の在り方をさらに探る必要がある。

イ 協同的に取り組む態度を育む指導を、3年間を見通した計画や各学年の年間指導計画に位置付け、系統的に行っていくこと。

5 指導モデル

中学校で比較的取り組まれることが多い内容について、協同的な態度を育むことを視点とした指導モデルを作成した。各学校での単元計画作成時の参考となる資料として示す。

職場体験を基にした指導例（第2学年）

(1) 単元名：「働くということ～職場体験学習～」

(2) 単元の目標

- 職場体験を通して働くことの意義や職業に対する意識を高める。
- 職場体験を通して自分に対する理解を深め、自己の将来の生き方を考える。
- 体験したことや追究したことを他者へ分かりやすく発信し、交流する。

(3) 単元の評価基準

| 自分自身に関すること【自】 | 学習方法に関すること【学】 | 他者や社会との関わりに関すること【他】 |
|--|---|--|
| ・各時間の自分の学習を振り返り、次回の課題を確認することができたか。 ・自分自身のこれからのことについて考えることができたか。 | ・各時の目標と見通しを理解し実践できたか。 ・体験から感じたことや考えたことをまとめたり、発表したりすることができたか。 | ・地域の方に積極的に質問したり、交流を深めたりしている。 ・他者の体験報告などから働くことについて考えを再構築することができたか。 |

(4) 指導計画 (50時間)

| 時 | 学習内容〈学習形態〉 | 指導上の留意点 | 主な評価の観点 |
|--|---|--|-------------------|
| 【学習活動1】オリエンテーション(情報の収集) | | | |
| 1 | ・ハローワークの方の話を聞く。 | ・働くことについて考える一助とする。 | 【他】 |
| 2 | ・働くことの意義の理解 | | 【自】 |
| 【学習活動2】新聞記事から(情報の収集・整理) | | | |
| 3 | ・新聞記事から働くことについて考える。 | ・新聞から「働くこと」に関する記事を探し、 | 【自】 |
| 4 | ・発表原稿を作成する。 | 考えをまとめさせる。 | 【学】 |
| 5 | ・グループで練習する。 | ・相手意識をもたせ、自分の考えがより伝わるように、指導・助言する。 | 【他】 |
| 【学習活動3】発表(まとめ) | | | |
| 6 | ・発表から他者の考えを知り、考えを再構築する。 | ・他者の考え聞き、自分の考えを再構築させる。 | 【他】 |
| 7 | | | |
| 【学習活動4】オリエンテーション(課題設定 職場体験に向けて) | | | |
| 8 | ・職場体験の目標を考える。〈個人〉→〈班〉→〈学級〉 ・今後のスケジュールの発表 | ・これまでの学習を基に、職場体験の目標を考えさせる。 ・ねらいを全員で共有することができるようにする。 | 【自】 【他】 【学】 |
| 【学習活動5】コミュニケーションについて(情報の収集) | | | |
| 9 | ・体験場所の決定〈個人〉・自己紹介カードの作成〈個人〉 | ・働くことを考える場面の設定をする。 | 【自】 |
| 10 | ・職場体験のコミュニケーション〈学級〉 事前連絡・事前打合せ・体験時・事後について 〈個人〉 | ・職場体験を通してコミュニケーションの取り方が理解できるようにさせる。 | 【学】 【他】 |
| 【学習活動6】職場体験(情報の収集) | | | |
| 11 | ・事前連絡、事前打合せ (2時間) | ・与えられた仕事を責任をもってやり遂げるようにさせる。 | 【自】 |
| ~ | ・職場体験 (30時間) | | 【他】 |
| 42 | | ・働くことの喜びや厳しさ、その職業の社会的な役割に気付かせる。 | 【学】 |
| 【学習活動7】職場体験後の報告書の作成(情報の整理・分析) | | | |
| 43 | ・報告書の作成〈個人〉 | ・礼状や報告書を丁寧に書くよう指導する。 | 【学】 |
| 44 | ・礼状〈個人〉 | ・仕事の内容、仕事をしての感想、学んだことをまとめさせる。 | 【自】 |
| 【学習活動8】職場体験新聞をつくる(情報の整理・分析) | | | |
| 45 | ・職場体験新聞の作成〈個人〉 | ・作成を通して各自が工夫して仕事の内容、感想、学んだことを再確認させる。 | 【自】 |
| 46 | | ・情報を整理し、分かりやすい新聞を作るよう支援する。 | 【学】 |
| 47 | ・発表準備〈個人〉 | ・様々な情報を整理し発表の準備ができるよう支援する。 | 【他】 |
| 【学習活動9】職場体験の発表・まとめ | | | |
| 48 | ・リハーサル〈個人〉〈グループ〉 | ・よりよい発表にするための意見や考えを言えるように支援する。 | 【他】 |
| 49 | ・職場体験新聞による発表 | | 【自】 |
| 50 | 〈個人〉〈学級〉 ・振り返り〈個人〉 | ・他者の報告から働くことについて考えをまとめることができる。 ・他者の評価から自分の意見や考えを再構築できるよう支援する。 | 【学】 |

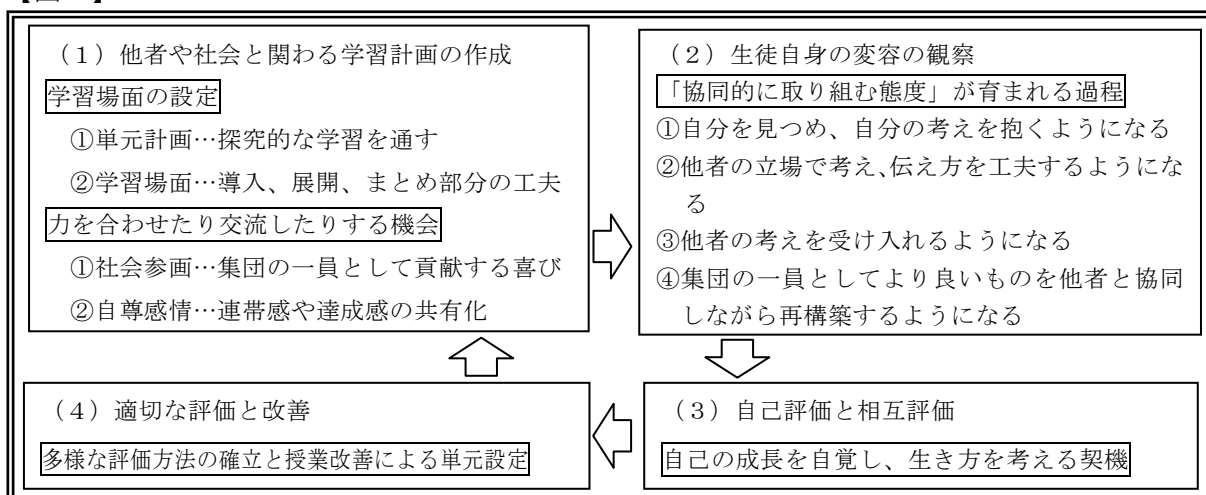
IV 研究の成果と課題

1 成果

本研究を通して、「協同的に取り組む態度」を育むためには、他者や社会との関わりに関する視点の踏まえた学習指導が効果的であることが検証された。また、協同的に取り組む態度を育むためには、他者と関わっていくことが不可欠である。他者と関わるために、話し合うことや、伝え合うために文章で表現することは、生徒の言語の能力を高めることにもつながった。

ここで、この1年間の研究の成果として、協同的な態度を育む学習活動についてのサイクルを提案したい。(図2参照)それは、他者や社会と関わる学習計画が生徒自身の変容を促し、「自己評価と相互評価」によって自己の成長に気付き自信を深め、将来の生き方を考える契機となるような授業展開を図る。そして、その単元のまとめには、教師による多様な評価方法によって生徒の可能性をさらに広げ、「授業改善」を図りながら発達段階に応じた新たな「単元設定」をしていくサイクルである。このサイクルにある連続性が、本研究部会の「研究主題及び研究副主題設定の理由」で示した「具体的な学習活動を質的に高めていく」手段となる。

【図2】



2 課題

(1) 個に応じた指導と指導体制の更なる充実

個々の生徒の協同的に取り組む態度の向上については違いが見られる。向上が顕著に見られなかった生徒への指導の在り方をさらに探り、一人一人が確実に協同的に取り組む態度を高めていくことができるようにする。そのためには、協同的に取り組む態度の育成について、3年間を見通して指導計画に位置付けるとともに、校内研修を行い、協同的な態度を育む学習活動についてのサイクル等指導の在り方を周知するなど、指導体制の充実を更に図っていく。

(2) 評価方法の確立

生徒の評価を行う場合、教師によって手法が異なることが考えられる。誰がどのグループを担当するのか、どの学習場面を重視していくのかなど、「信頼される評価」の構築に向けた共通理解と、客観的な資料の積み重ねが求められる。そしてその評価が、生徒自身の生き方を考える知恵として蓄えられ、将来に活かしていくことができるような内容でなければならない。

平成22年度 教育研究員名簿

中学校 ・ 総合的な学習の時間

| 地区 | 学 校 名 | 職名 | 氏名 |
|-----|---------|------|--------|
| 港区 | 朝日中学校 | 主任教諭 | ○伊藤 一永 |
| 板橋区 | 赤塚第二中学校 | 主任教諭 | ◎岡部 誠 |
| 多摩市 | 東愛宕中学校 | 主任教諭 | 野畑 愛子 |

◎ 世話人 ○ 副世話人

[担当] 東京都教職員研修センター研修部教育開発課 指導主事 高瀬 智子

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
総合的な学習の時間

東京都教育委員会印刷物登録

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451